

がんばろう 南三陸町 復興第84号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター

第12回県東ブロックなでしこ 志津川大会



5位に佐々木紀子さん(志津川)入賞

は「さわやかな風の中ですが、十分に水分補給をして下さい」と選手にルールと説明を行なった。

(大会成績)

- 1位 西城悦子さん(気仙沼市) 33打
- 2位 須藤正子さん(東和町) 34打
- 3位 浅井恵代子さん(米山町) 36打

始球式には町長と議員9人が立ち、及川議員のホールインワンに拍手がおこった。引き続き、交歓プレーが開始された。



順位	No.	氏名	所属	ホール毎打数								1R打数	ホール毎打数								2R打数	最終打数	打数内訳						ホール数	
				1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8			1打	2打	3打	4打	5打	6打		
1	02-27	西城悦子	気仙沼市	2	3	2	3	3	2	1	2	18	3	2	4	3	1	3	2	3	21	39	33	2	6	7	1	0	0	16
2	06-67	須藤正子	東和町	4	2	2	2	2	2	3	2	19	2	3	2	3	2	2	3	1	18	37	34	1	10	4	1	0	0	16
3	10-99	浅井恵代子	米山町	3	3	3	4	2	1	2	3	21	4	2	1	3	2	4	2	3	21	42	36	2	5	6	3	0	0	16
4	07-76	小田島カツ子	地町	2	3	2	1	2	2	3	2	17	3	3	4	3	2	2	2	2	22	39	36	1	8	6	1	0	0	16
5	13-117	佐々木紀子	志津川	3	4	3	4	1	2	4	3	24	3	3	3	2	1	2	2	3	19	43	37	2	4	7	3	0	0	16
6	02-18	菅原信子	気仙沼市	4	3	3	4	1	2	3	4	24	3	2	3	2	1	3	2	3	19	43	37	2	4	7	3	0	0	16
7	05-53	相野谷文子	石巻市	2	3	3	2	1	2	3	2	18	3	2	3	3	2	3	3	4	23	41	38	1	6	8	1	0	0	16
8	11-107	熊谷清子	中田町	3	3	3	2	1	2	4	3	21	3	3	2	2	2	2	3	2	20	41	38	1	6	8	1	0	0	16
9	08-83	佐藤氏子	いしこし	2	4	2	3	1	3	3	3	21	3	4	3	2	2	2	3	2	21	42	39	1	6	7	2	0	0	16
10	03-41	平塚美喜子	女川町	3	3	2	3	1	2	2	2	18	3	4	3	3	3	3	2	2	24	42	39	1	5	9	1	0	0	16

8月3日南三陸町戸倉公民館グラウンドに於いて、「第12回県東ブロックなでしこゴルフ交歓志津川大会」が開催され、北は気仙沼市から南は石巻市まで、愛好家約160名が集まり交流を深めた。

開会式では県東ブロック連絡協会の石川会長が「10年ぶりの大会です。思い出多き一日にしましょう」「健康寿命を伸ばすスポーツです」と挨拶した。祝辞では佐藤町長が「30度を超える気温、健康に注意して10年ぶりに頑張っていたください」と言葉を送った。山内副議長は「多くの皆様からの支援に感謝申し上げます」「試合に熱中するにあたり、お身体に気を付けて下さい」と大会を祝った。実行委員長の阿部会長



志津川グラウンド・ゴルフ協会は、体育協会に加盟となり、新しい会員を募集している。

第92回志津川湾夏まつり 復興市



1500発の花火が夜空を彩る

2019年7月27日土曜日、12時からのオープニングセレモニーで「志津川湾夏まつり復興市」がスタートした。

天候にも恵まれ、市場前の大通りにはたくさんのお店が軒を連ねた。家族連れや着物に身を包んだ来場者が思い思いの屋台で食べ物を買って、フードコートでステージイベントを楽しんだ。

路上イベントは15時から「トコヤッサイコンテスト」で、多くの来場者が7チームのパフォーマンスを楽しんだ。参加チームは①社会福祉協議会 ②志中「チームわかめ」③台湾「ツキノワグマ」(初参加) ④志中「チーム銀ざけ」⑤(株)行場商店 ⑥志中「チームたこ」⑦黒龍会

「黒龍会」が今年も優勝し3連勝となった。踊り・コスチューム・元気大人と子供達のコラボ参加チームは少ないが志津川湾夏まつりに色々な華を添えてくれたトコヤッサイコンテスト!



志津川中学校からは「銀さけ」「たこ」「わかめ」の3チームが参加。生徒の元気が来場者に伝わった。頑張れ「志中生」!



台湾の「国際交流」の高校生。台湾の雰囲気いっぱいこんな所にも震災で育まれた「絆」を感じる。



「繋がる!」事の意義を社会福祉協議会は背中「繋」で伝えていた。黒とピンクのコスチュームがまた良かった。

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年) 4月の出来事
~ 地元報道より ~

南三陸町

◆南三陸町教育委員会の新教育長に1日、前志津川小学校校長の齊藤明氏(60)が就任し、町役場で辞令交付が行なわれた。

◆1日南三陸町の辞令交付式がベイサイドアリーナで、職員約250人が出席して行なわれた。新規採用は19人。

◆4月から南三陸病院の内科勤務医師が1人減って、2人体制となった。町は医師確保に努めていく方針。

◆県が東日本大震災後に気仙沼・南三陸両市町で進めている。農地復旧工事が本年度内に終了する見込みとなった。2011年に工事に着手し、南三陸町は460ヘクタールが昨年度までに全て完成した。

◆5日志津川湾で、サケの稚魚約21万匹を放流した。

◆5日午前6時ごろ、南三陸町歌津奇木の漁業島山健作さん(80)方の敷地内にある倉庫から出火した。倉庫2棟が全焼した。

◆南三陸町の荒島・楽天パークに、アサヒグループホールディングスからの寄付300万円を使って、新たな遊具2基を町が設置した。

◆南三陸町は労働力確保対策補助金として、3

種類の方法で支援することにした。補助金は本年度700万円を予算化した。これまでの制度内容を見直す形で、東日本大震災からの復興に欠かせない働き手の確保をサポートする。

◆東日本大震災の被災地支援を行なっている国連NGO世界平和女性連合・広島第一連合から4日、南三陸町内の新入学児童にノートや下敷きなどが贈られた。これまでは「愛の福袋」プロジェクトを行なっていたが、昨年からの震災後に生れた新入学生児童への支援を始めた。今年は5小学校合わせて入学児童は71人。支援活動を通じて交流がある千葉印刷事務を介して、齊藤教育長に届けた。

◆戸倉地区で10日、今シーズン初のギンザケの水揚げが行なわれた。志津川地区でも水揚げがスタートしていて、志津川湾のギンザケ漁が本格化する。

◆10日午前11時56分ごろ、戸倉切曾木の佐々木富士夫さん(70)の家族が経営する佐々木牧場で、わらが燃える火事があった。建物への延焼はなくケガ人もいなかった。

◆町の自然や歴史を学ぶ「南三陸子どもクラブ(仮称)」が、5月に発足する。町内の小学4年生から中学校3年生まで15人を公募。

◆東京電力福島第一原発事故後、韓国のホヤなど被災地の水産物輸入禁止措置が今後も継続されることに決まった。震災前は歌津地区では9割以上が韓国向けだった。ホヤの産地である気仙沼・本吉地方のホヤの生産者は、輸入禁止が続くと生産への影響が懸念され、落胆の声も上がっている。

◆南三陸病院前に植えられているシダレウメが満開となった。ウメは病院再建を支援した台湾の国花で、毎年きれいな花を咲かせている。

◆歌津地域で今シーズンの養殖ワカメの生産量が、苦戦を強いられている。昨夏の猛暑で秋に入っても水温が高かったことが要因として考えられる。栄養塩不足による生育の不良などで今季は出足からつまづいた形となった。

◆「南三陸町生涯学習センター」(志津川新井田)が25日開館。当日の午後からは一般の利用が可能。内部は志津川公民館と町図書館が入っていて、事務室を中心に回遊しながら両施設を利用することができる。

◆「南三陸ワインプロジェクト」の初ワインが17日から販売される。価格は2500円で、数に限りがある。地域おこし協力隊が取り組んでいたもので、新たな南三陸ブランドのPRに弾みがつきそうだ。

◆南三陸町産クラフトビール製造が計画されている。町の地域おこし協力隊員としてメンバー2人を、募集している。原料のホップ生産は遊休農地を活用する。

◆17日南三陸署と南三陸地区防犯協会が、地域の防犯活動に協力する地域防犯連絡所に48カ所を委嘱した。任期は4月1日から2021年3月末までの2年間。震災以降は委嘱を行なうことができなかったが、住宅再建、コミュニティの形成も一定程度進んできたことで、連絡所への委嘱を再開した。

◆26日に志津川地区に整備を進めてきた「復興拠点連絡道路」が全線開通する。連絡道路は町が延長4キロの町道志津川環状線として整備。